

# 炭鉱遺産活用基本構想

## 1 立坑の固有性

- ① 市民にとってのランドマーク・シンボルとなっている
- ② 本物の産業の風景が残っている
- ③ 人の働いていたぬくもり感・記憶・魂を感じることができる
- ④ すでに保存活用のための活動が展開されている

## 2 目指すべき姿

立坑の固有性を手がかりに、10年後に次のような姿を目指す。

- ① 「赤平はすごいね！」と言われる
  - ・ 保存活用の動き自体が赤平の先駆性・独自性を表現し、建物や資料が担保される。
- ② まちの歴史と炭鉱マンや炭鉱で暮らしてきた人たちの誇りや思いが語り伝えられる
- ③ 技術探求・創意工夫・安全といった産業の本質が伝えられる
  - ・ 子ども達を含め、実践実習を通じて伝える赤平らしい独自の教育。
- ④ 市民の郷土愛を育む思い出の場とする
- ⑤ 新旧・内外・老若など多様な人の思いや行動で新たな価値を生み出す
  - ・ 炭鉱の多様性という特質の再現、新たな価値を生み出す要素。

## 3 整備の基本方針

10年後に目指すべき姿を具体化するための基本方針

- ① 段階的な整備
  - ・ 想定される最終形の土地利用を想定（20年スパン）。
  - ・ 基本に沿って可能な部分から具体化し、5年スパンで整備する。
  - ・ 5年間の成果と反省を検証し、6年目以降に新たな整備方針を検討する。
- ② 既存空間・施設の最大限の活用
  - ・ 歴史的記憶に繋がる施設・空間を最大限保存して、資源として活用する。
  - ・ 立坑櫓と事務所は一体的なものとして保存
  - ・ 立坑自体が圧倒的迫力のあるメイン施設であり、他の付加価値的施設は、補助的解説の役割を担う。
  - ・ 事務所は当面収蔵庫的な位置づけで活用
- ③ 市民・企業・行政の役割機能
  - ・ 行政は炭鉱施設改修や資料館、駐車場など、最低限必要な基盤整備を行う。
  - ・ 市民や企業は伝習実習の場づくり並びに空間保全など、協力可能な範囲で参加する。
- ④ 広域的な機能連携と役割分担
  - ・ 空知全体として各自治体の特色を生かすため、機能重複を避ける。

⑤ 推進システムの重視

- ・ ハードだけではなくマネジメントの仕組み・人材・機能等を重視する。

#### 4 整備の概要

① 最終目的の土地利用

- ・ 計画的な土地利用を図るため、別紙イメージ図をガイドラインとして位置づける。

② 短期的な施設整備

○ 緊急性が高い整備

- ・ 立坑櫓建屋の劣化防止
- ・ 立坑櫓本体の点検や部分的な防蝕塗装

○ 市民が活動する上での課題解決

- ・ 活動のための場づくり

○ 先行的整備の必要性

- ・ 旧住友赤平小学校に所蔵している資料の移設

○ 一般公開のための準備作業

#### 5 その他

① 財源確保

- ・ 地方創生等の国の交付金や財源措置のある貸付，企業版ふるさと納税などの寄附金の活用を検討する。

② 国の文化財登録及び指定作業を進める

③ 耐震関係

- ・ 文化財登録及び指定による国庫補助金を活用した耐震工事等を検討する。

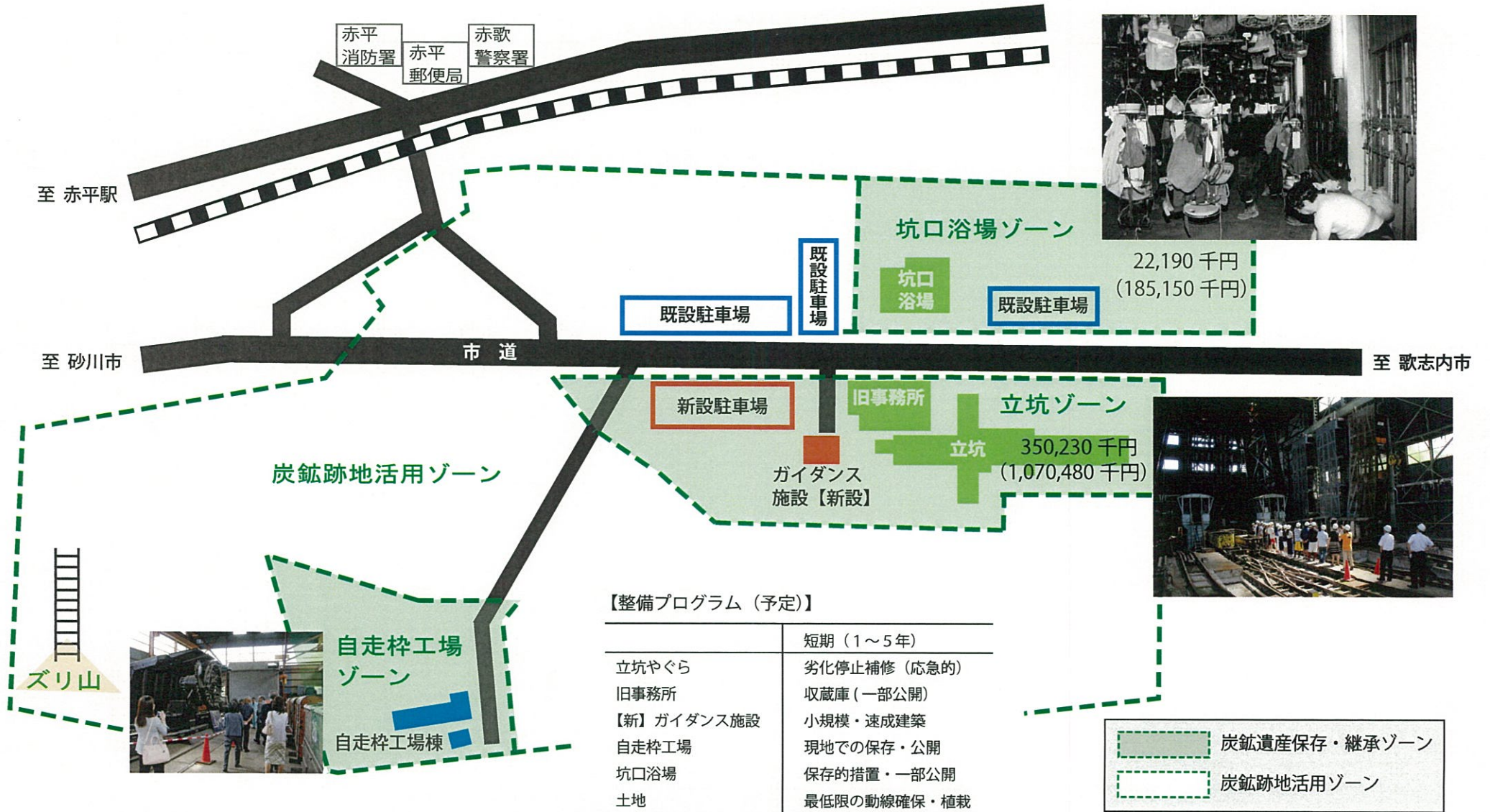


# 炭鉱遺産活用の基本構想

## 【ゾーニング・将来イメージ図】

全体事業費 372,420 千円  
(1,255,630 千円)

( ) 内は、重要文化財に指定された後に  
予想される事業費を加えた金額



22,190 千円  
(185,150 千円)



350,230 千円  
(1,070,480 千円)

※立坑やぐら・坑口浴場などは文化財指定・登録を目指し、調査研究に取り組みます。

## ガイダンス施設建設概要

### 1. 全体工事費（建設予算）について

項 目	金 額
合 計	255,800 千円
(内訳) ・委託費計	17,280 千円
(実施設計)	10,800 千円
(測 量)	2,160 千円
(地盤調査)	4,320 千円
・工事請負費（建築主体・電気設備・衛生設備・外構工事）	238,520 千円

※施設の詳細については実施設計の中で計画する。



## 事業費の財源内訳・市負担額

### 炭鉱遺産施設の保存・継承・活用のための事業費（立坑櫓本体・立坑櫓棟・事務所棟・浴場棟・ガイダンス施設）

（単位：円）

区 分	改修目標時期	事業費	財 源	財源額	財政措置額	市実質負担	市平均年間負担(17年償還)
緊急的改修	H30～H34	116,620,000	過疎対策事業債	116,620,000	81,634,000	34,986,000	2,058,000

区 分	改修目標時期	事業費	財 源	財源額	財政措置額	市実質負担	市年間負担(20年償還)
ガイダンス施設	H28～H29	255,800,000	国庫支出金(50%)	127,900,000	127,900,000	63,950,000	3,197,500
			補正予算債	127,900,000	63,950,000		

区 分	改修目標時期	事業費	財 源	財源額	財政措置額	市実質負担	市平均年間負担(17年償還)
長期的改修 耐震関係	重要文化財に 指定された後	883,210,000	国庫支出金(65%)	574,086,500	574,086,500	92,737,050	5,455,121
			過疎対策事業債	309,123,500	216,386,450		

※ 長期的改修耐震関係の金額は、赤平市が積算した現時点における概算であり、実際に重要文化財の指定を受けた場合には文化庁指定業者の積算となるため大きく変動することが予想されます。

### 合 計

（単位：円）

区 分	改修目標時期	事業費	財 源	財源額	財政措置額	市実質負担	市年間負担
合計	H28～H34 (「長期的改修耐震 関係」を除く。)	1,255,630,000	過疎対策事業債	425,743,500	298,020,450	191,673,050	10,710,621
			国庫支出金	701,986,500	701,986,500		
			補正予算債	127,900,000	63,950,000		